

木曾圏域自立支援協議会だより

編集・発行 木曾圏域自立支援協議会

事務局 木曾広域連合健康福祉課福祉係

住所 木曾郡木曾町日義4898-37

TEL 0264-23-1050/FAX 0264-23-1052

E-mail: fukushi@kisoji.com

第29号
令和5年3月
発行

令和4年度 木曾圏域自立支援協議会 全体会

令和4年11月28日 木曾合同庁舎 講堂

今年度も2部構成にて開催、一般の方も含めて45名に参加いただきました。

第1部では各部会、連絡会、委員会、きそあんしんねっとより、活動の趣旨と経緯、成果と課題、課題解決に向けた取り組みについて報告があり、また療育支援部会と重心・医ケア児／者在宅支援コンダクターチームより「地域生活を支える交流や社会資源の拡充」について提言がありました。

第2部ではドキュメンタリー映画「道草」を上映、自閉症と重度の知的障害があり、自傷・他害といった行動障害がある方の日常の様子、ご家族や関係者へのインタビューが収められていました。「障がいのある人も障がいのない人も普通に暮らせる地域づくり」に参考になる作品でした。

木曾圏域自立支援協議会の療育支援部会提言書

令和4年11月14日

木曾圏域自立支援協議会 会長 奥原 秀一様

療育支援部会 部会長 山形弥生
重心・医ケア児／者在宅支援コンダクターチーム
座長 水本知子

療育支援部会の中の、重心・医ケア児／者在宅支援コンダクターチーム（以下、「チーム」という。）では、「木曾地域における重心・医療的ケア児（以下、「医ケア児」という。）の地域生活を支えるための社会資源」について検討を重ねてきました。

この度、検討に基づき、次の点について提言します。

1) 提言

- ①木曾圏域における医療的ケア児やその家族の生活を支援する目的に、医ケア児が放課後等デイサービスを安全に利用できるように受け入れ体制を確保すること。
- ②医ケア児が移動サービスを安全に利用できるように体制を確保すること。

2) 経過と現状

チームでは、平成27年度から協議の場を設定し、圏域内の医ケア児の状況やその家族の生活状況の把握、本人と家族の生活を支えるために利用している医療・福祉サービスについて確認してきた。資源の確認や児童の状況把握を進めるなかで、地域生活に必要な資源について、木曾圏域の現状と課題を下記の通り整理した。

医ケア児やその家族は、外出の機会や社会交流が制限されやす

い。また、家族は休憩時間や自己の時間を確保することが難しい状況にある。

特に医療的ケアが必要な場合、家族もしくは看護職員がいないと過ごすことが困難で、移動時・生活面での配慮が必要であり、通園や通学、外出の制限が生じている。

また、医ケア児の社会参加や交流、その家族の社会参加や就労などの制限も生じている。

3) 課題と方策

課題1 医ケア児が放課後等デイサービスを利用する際、医療的ケアを実施する場合に看護職員が必要となるが配置されていない。

課題2 医ケア児が移動の際、福祉車両および看護職員が同乗できる体制が整っていない。

方策 児童が通所する事業所に看護職員を確保することで、医ケア児が放課後等デイサービスを安全に利用でき、本人及び家族の活動の選択肢を増やすことができるのではないかと考える。

なお、看護職員を配置する手段の一つとして、放課後等デイサービスと訪問看護ステーションが契約することで、放課後等デイサービス利用時に看護職員を確保することができる。

また、事業所の送迎車に看護職員が同乗できる体制を作ることで、医ケア児の受け入れが可能になると考える。

以上

◎提言の具体化に向けて、協議会内での現状の確認と協議、関係機関との調整などを行い、「自立支援協だより」に経過報告をしていきます。

木曾圏域自立支援協議会 生活支援部会 木曾馬の里、木曾おんたけ健康ラボ視察研修報告



生活支援部会では、障がい者の余暇充実を大きなテーマに掲げており、令和4年10月26日（水）に、木曾地域の余暇資源を把握する事を目的として、木曾町開田高原にある「木曾馬の里木曾馬乗馬センター」と「木曾おんたけ健康ラボ」を視察してきました。

○木曾馬の里 木曾馬乗馬センター



木曾馬の里では、もともと木曾養護学校とともに「馬の学習」と題して馬との触れ合いを通じた「治療的乗馬」に積極的に取り組んでおり、障がいのある方が、乗馬やウォーキング、世話やりなど、木曾馬に触れ合える様々な体験を用意しています。四季が感じられる豊かな自然の中で木曾馬を世話する感覚を持つことで生活のリズムが規則的に整い、さらに木曾馬は、性格も温厚で体高が低いことから触れ合いに向いており、精神面の安定やリラックス効果につながると期待されています。実際に触れあってみると冬場でも高い馬の体温の温かさを感じ、その愛嬌ある表情にも癒されました。

○木曾おんたけ健康ラボ



開田高原の雄大な自然や地形を活かして、遊具を用いたレクリエーションや、ウォーキング・マウンテンバイク等による五感を刺激する森林散策、流行のアクティビティなど、森の中で体験できる様々なメニューが用意されています。隣接する郷土館には歴史展示物があり併せて見学も可能。さらに近隣には、木曾馬の里そば打ち体験、開田高原ソフトクリーム、開田名産の蕎麦屋もあり、併せて訪れ、食・運動ともに大満足出来ます。自然の中でマイナスイオンを浴びながら五感を刺激する体験は、心身もリフレッシュできおすすめです。

2か所とも余暇を充実できる素晴らしい施設であり、生活支援部会ではこのような施設を今後とも紹介していきたいと考えております。皆様もお気軽にご利用ください。

「木曾馬の里 木曾馬乗馬センター」

〒397-0301

長野県木曾郡木曾町開田高原末川 5596-1

TEL 0264-42-3085

<http://www.kisoumanosato.or.jp/>

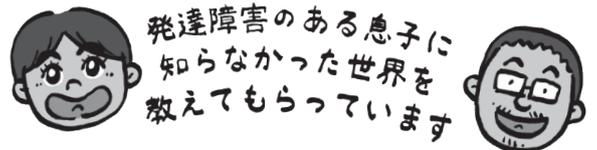
「木曾おんたけ健康ラボ」

〒397-0301

長野県木曾郡木曾町開田高原末川 1899-4

TEL 0264-24-0870

<https://ontakelabo.jp/>



発達障害のある息子に
知らなかった世界を
教えてもらっています

はじめまして。上松町に住むイラストレーター大畑哲也と申します。僕の下の息子は発達障害を持っています。

息子が産まれてから、色々なことに悩み辛く感じたこともありましたが、でもそれだけでなく、色々な方とご縁をいただいたり、知らなかった世界を息子を通して教えてもらっています。

10月には「みんなではなそう会」（上松町）に参加させていただきました。育て方の悩みや日頃思っていることをお話させていただきました。

息子には親として、また人として育ててもらっています。

こちらでは「ひとりの親」の視点から情報を発信できたらと考えています。

よろしく願いいたします。



発達障害児の父親の子育て成長記録

<https://note.com/ariga10kikaku/m/m77753386db98>